

コンピューターシミュレーションが描く 気象の将来予測

～ IPCC最新報告書が伝えること ～

2021年12月19日(日)

13:00～15:30

参加費無料(事前申込みが必要)

ZoomウェビナーとYouTubeライブ配信による
オンライン開催

2021年8月、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第1作業部会の報告書が8年ぶりに更新され、人間の影響が大気、海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がなく、何も対策が取られなければ、今世紀中に温暖化は更に進み、影響は広範囲に及ぶことが示されました。第22回気象教室では、今回のIPCC報告書の執筆や研究に深く携わった講師の方から、最新のIPCC第6次評価報告書の内容について、分かりやすく解説していただきます。

第1部

13:10～14:10(13:00～接続開始)

「IPCC第6次評価報告書の概要」 ～社会へのメッセージ～

講師：渡部雅浩(東京大学 大気海洋研究所 教授)



第2部

14:20～15:20

「将来シナリオ研究について」 ：排出緩和シナリオの探索

講師：花岡達也(国立環境研究所 社会システム領域
地球持続性統合評価室 室長)



共催：日本気象学会九州支部、九州大学応用力学研究所

後援：日本気象予報士会西部支部

申し込み先：<http://msj-kyushu.jp>のフォームから 締切：12月16日

問い合わせ先：気象学会九州支部事務局 E-mail：info@msj-kyushu.jp

お申込みはこちら →



★講演者 1

渡部 雅浩 (わたなべ まさひろ)

・所属・役職名・略歴

東京大学大気海洋研究所 教授

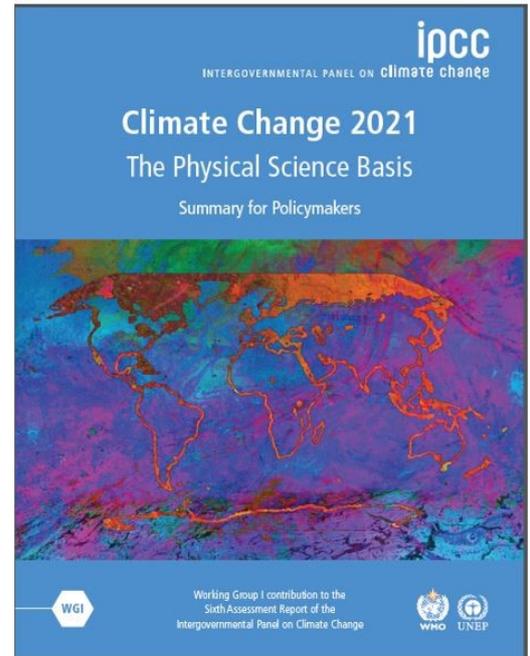
1971年神奈川県生まれ。2000年、東京大学大学院理学系研究科地球惑星物理学専攻博士課程修了。博士（理学）。ハワイ大学客員研究員、北海道大学准教授、東京大学大気海洋研究所准教授を経て2016年より現職。受賞多数。気象庁異常気象分析検討委員会委員などの国内委員および、国際的な気候研究プロジェクトの共同議長を務める。IPCC第6次評価報告書執筆者の一人。専門は気候力学。著書に「絵でわかる地球温暖化」（講談社）など。

・講演題目

IPCC第6次評価報告書の概要—社会へのメッセージ—

・講演概要

2021年8月に、IPCC第一作業部会の第6次評価報告書 (AR6) が公開された。これは前回報告書から8年ぶりとなるもので、近年の観測データの充実や気候モデルの発展を反映した内容となった。また、2050年カーボンニュートラルに関連して、近未来の温暖化予測が大きな注目の的となった。このAR6の内容を分かりやすく紹介し、そこからどのようなメッセージをくみ取れるかを皆さんと一緒に考えてみたい。



出典: IPCC 2021 SPM 表紙

★講演者2

花岡 達也 (はなおか たつや)

・所属・役職名・略歴

国立環境研究所 社会システム領域 地球持続性統合評価室長

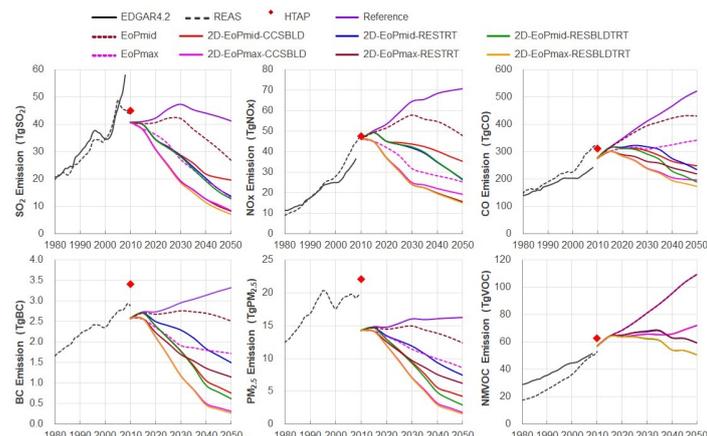
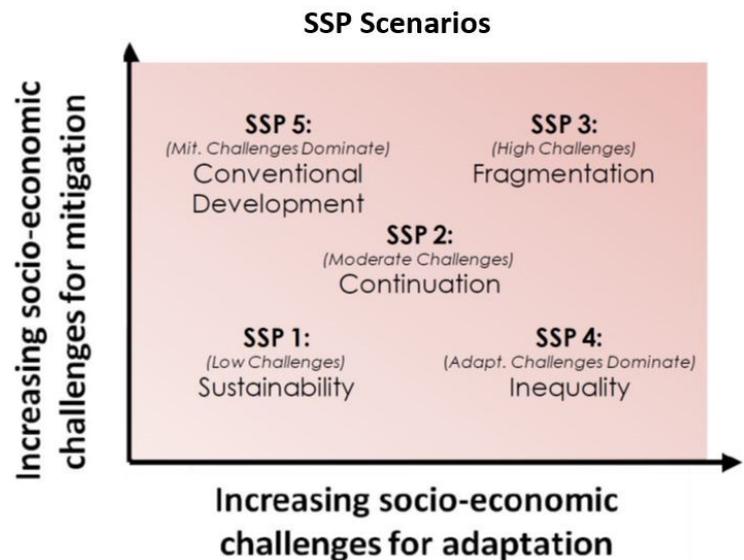
2004年に東京大学大学院工学系研究科地球システム工学専攻で博士号を取得後、国立環境研究所で研究員として勤務。途中で2011年にケンブリッジ大学のCambridge Center for Climate Change Mitigation Research (4CMR)にて客員研究員を務める。統合評価モデルを用いた気候変動緩和策に関する将来シナリオ分析に従事。2020年より現職。

・講演題目

将来シナリオ研究について：排出緩和シナリオの探索

・講演概要

IPCC排出シナリオ特別報告書 (2000) において排出シナリオを描くコンセプトが示され、世界の研究機関・研究者によって様々な排出シナリオが描かれてきた。特にIPCC第4次評価報告書 (2007) 以降、排出緩和シナリオ研究が国連気候変動枠組条約における国際交渉に大きな影響を与え、パリ協定 (2015) において「世界の平均気温上昇を2°C未満に抑えるとともに1.5°Cに抑える努力を追求する」ことが合意された。そこで、これらの排出緩和シナリオは、どのように描かれているのか？将来シナリオを描く際のコンセプト設計や、統合評価モデルを用いた排出緩和シナリオの定量的な評価手法などについて紹介する。



★座長

竹村 俊彦（たけむら としひこ）

・所属・役職名・略歴

九州大学応用力学研究所・主幹教授
1974年生まれ。2001年に東京大学大学院理学系研究科博士課程修了。博士（理学）。2001年から九州大学応用力学研究所助手。2006年から同研究所准教授。2014年から現職。専門はコンピュータを使った大気中の微粒子（エアロゾル）により引き起こされる気候変動・大気汚染の数値シミュレーション。気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第5次評価報告書主執筆者（Lead Author）。SPRINTARS PM2.5・黄砂予測を運用。Highly Cited Researcher（高被引用論文著者）に選出中（7年連続）。2018年度日本学士院学術奨励賞・日本学術振興会賞。



◎お申し込み方法

気象教室は、Zoomウェビナー（先着990名様）とYouTube Live（無制限）によるオンライン開催となります。参加費は無料ですが、以下のとおり事前の参加申し込みとインターネット接続環境が必要です。

お申し込みは、学会ホームページ（<http://msj-kyushu.jp>）からイベント，気象教室，参加申し込みフォーム（<https://forms.gle/tPNnb4pEQjoEP8NE8>）へ進み，参加申し込みフォームを利用してお申し込み下さい。

- （1）登録フォームに必須事項を記入して登録。（締め切りは12月16日）
- （2）気象学会九州支部からご登録頂いたメールアドレスへ12月17日までに接続に必要な情報をご連絡致します。
- （3）当日は、メールのご案内に従って、開始時刻までに接続をお願いします。